



日本安全保障貿易学会 研究大会

サウジアラビア対イラン

緊迫する両岸関係

KSA vs. IRI

Showdown at the Persian Gulf

@慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科

@日本エネルギー経済研究所中東研究センター

田中 浩一郎

2018年3月17日

注目すべき動きと関心事項

- ペルシア湾の両岸関係
- サウジアラビアの“改革”とその狙い
- イランが直面するトラウマ
- 域内のパラダイム・シフト



サウジアラビアとイランの対立項

イラン	対立項目	サウジアラビア
シーア派	宗派	スンナ派
ペルシア	言語族	アラブ
アサド政権を支援	シリア	反アサド派を支援
ホウシー派へ武器供給	イエメン	ハーディ移行政権を軍事支援
ヒズブッラーを支援	レバノン	反ヒズブッラー勢力を支援
シーア派政権に接近	イラク	シーア派政権と距離
取込み	カタール	ボイコット
米国などと交渉	イラン核合意	米欧に不信感
AQおよびISIS/ISIL	最大のテロ脅威	ヒズブッラー
シリア内戦での勝利	戦略的優先事項	イエメン内戦での勝利
米国	安全保障上の脅威	イラン

サルマーン家“サルマーニ・アラビア”

政策・イベント	標的および意図する効果	ツール
低油価誘導	イラン、ロシア、シェール生産業者、IS	増産余力、OPEC内紛、テロ脅威
シーア派（イラン）封じ込め	アワーミーヤ（サウジ東部州）、バハレーン、イラク、ヒズブッラー	テロ対策 内政干渉非難
イエメン軍事介入	ホウシー派（イラン）、故サーレフ前大統領、AQAP、IS	国防意識 宗教心
シリア軍事介入	アサド、イラン、ロシア、クルド、IS、旧ヌスラ戦線	同胞意識 宗教的道義
対テロ・イスラーム軍事連合軍	IS、AQ、ヒズブッラー、アサド、イラク、イラン	財政支援、テロ脅威、シーア派（イラン）警戒
「ビジョン2030」と「国家改造計画」	財政健全化、経済の低油価抗堪性向上、社会の変革、（対イラン）国力増強	有事意識、宗教的道義



⇒ 相互関連性が強く、一つの失敗で全体が崩壊しかねない構造

チグハグなサウジアラビアの財政政策

財政再建策	大型「散財策」
<ul style="list-style-type: none">● 開発プロジェクトの見直し・中止● 公務員の昇給停止・諸手当の削減● 王族手当の一部廃止● ユーティリティ料金等の改定● 付加価値税（VAT）の導入● 就労ビザの更新手数料改定● サウジアラムコ株IPO	<ul style="list-style-type: none">● 5億ドルのヨット、5億ユーロのシャトー、5億ドルの名画● サルマン家の祝事で公務員に臨時ボーナス支給● 過去の削減措置の遡及撤回● イエメン内戦介入の軍事費● 軍人の従軍手当増額● 巨額の最新兵器導入● Vision 2030の実施

“正しいイスラームの実践”で競合

サウジアラビアに生じた変化



運転は問題ないイラン



イランの止まないシリア内戦介入



Zeinabiyun部隊の戦死者葬列



Fatemiyun部隊の戦死者葬列



Mohammad Ali Allahdadi准将の葬儀

延びる戦線と“前線基地”

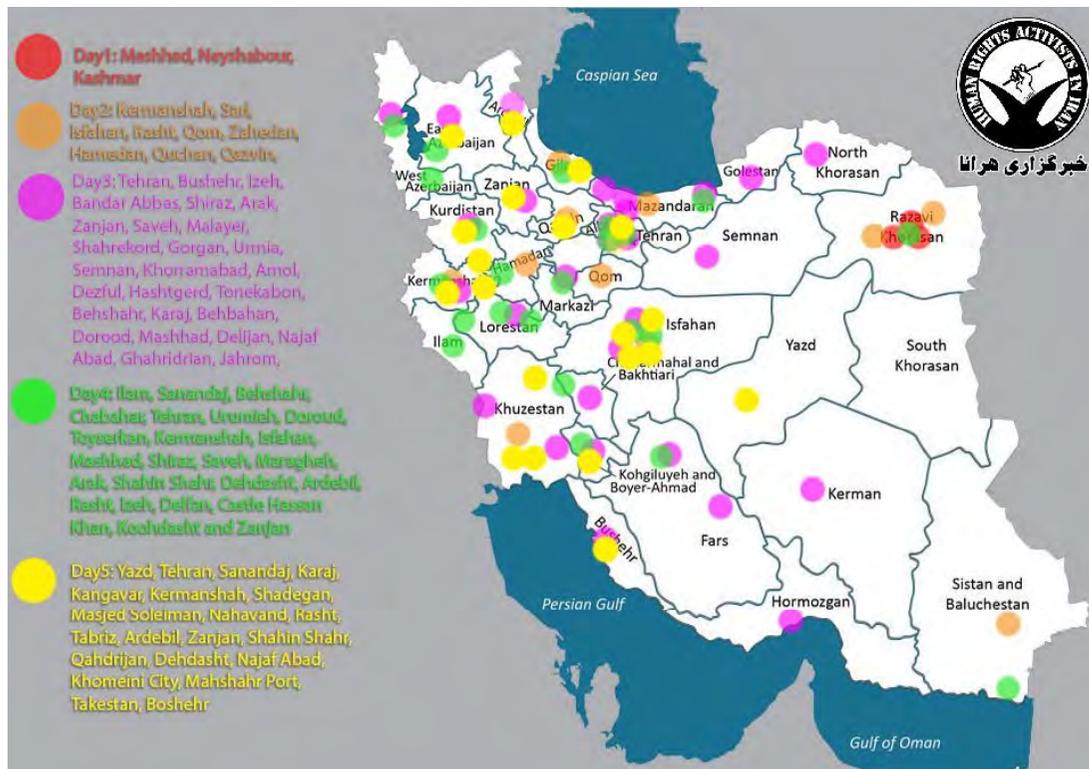
Jabal ash Sharqi, Syria – Suspected as Iranian Base



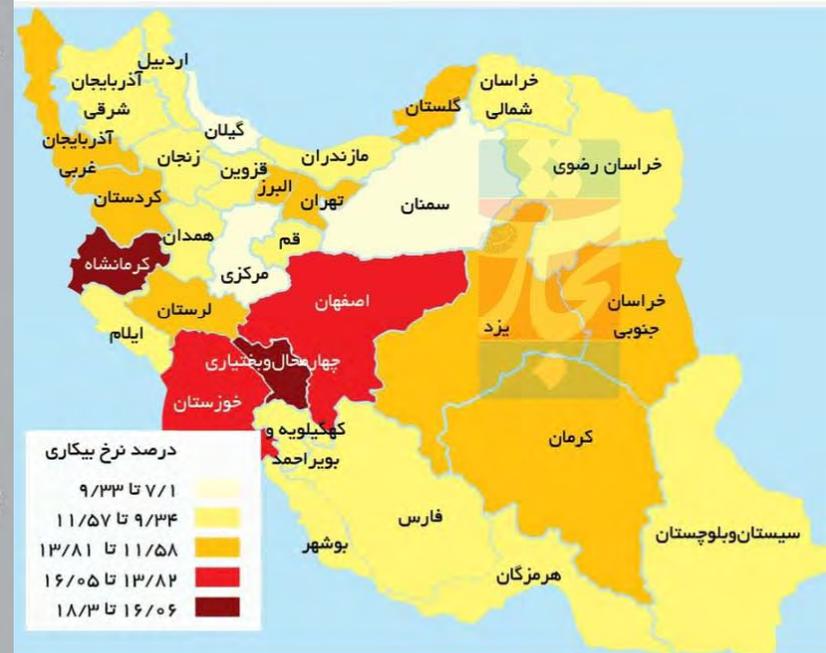
出所 : ImageSat International

国民の憂いと騒擾事件

左図：デモ発生のタイムライン（日付順）



右図：州別の失業率



- 内務省が発表したデモ参加者の調査結果
 - 84%が35歳以下
 - 治安絡みの前歴を持たず
 - 59%が高卒か、それ以下の学歴

パラダイム・シフトの出現



- 従来の中東に存在し得なかった構図
 - オバマ政権時代の単純な「揺れ戻し」にあらず

A) サウジアラビアとイスラエルの半ば公然の接近

- “アラブの盟主”としてのサウジアラビアの覚醒
 - エジプトとシリアの没落
- イランの脅威のオフセットを狙うイスラエル
 - 伝統的手段の喪失
- 協調関係の構築を示唆する状況証拠
 - 米国製兵器の対サウジ売却をめぐるイスラエルの沈黙
 - 原子力協定交渉ではサウジによるウラン濃縮などを容認か
 - エルサレム首都認定に対するサウジの抑制の効いた反応ぶり

イラン
対イスラエル
ヒズブッラー
ハマース他
シリア

対サウジ
バハレーン
イラク
イエメン



イスラエル
対イラン
トルコ
クルド
アゼルバイジャン

サウジ
対イラン
アフガニスタン
イラク
フーゼスターン

イランの脅威をサウジアラビアでオフセットするイスラエル?

パラダイム・シフトの出現

B) イランとロシアの接近

B) イランは歴史問題を“棚上げ”

C) ロシアから見て「お買い得感」の高いイラン

C) トルコとロシアの連携

• 諸事件を乗り越え、是々非々で実利を追求

